Monitoring Post
モニタリングポスト

PET サマーセミナー2017 in 奈良の印象記

菅　一能
Suga Kazuyoshi

PET サマーセミナーin 奈良は，平成 29 年 8 月 25～27 日に開催され，天理よろず相談所病院 RI センターの御前 隆大会長と実行委員長の京都大学の中本裕士先生のもとに「古都から拡げる PET の大きな和」をテーマに行われた。魅力的なプログラムが組まれ大盛況で，合計 671 名の参加があり医師 29.5％，診療放射線技師 26.7％，企業関係者 17.1％，看護師 12.1％，薬剤師 3.0％等の割合であった。

大会長横断企画セッションのテーマは，「残念な結果を減らすためには？」で，御前大会長と近畿大学の細野 眞先生の座長のもと，臨床医の立場からゆうあいクリニックの川本雅美先生は臨床経過や既往歴等，臨床情報が欠如している例等の具体例を提示された。PET 専門放射線診療技師の立場から近畿大学の坂口健太先生が追加撮像の判断や狭所恐怖症の対処等を話され，PET 診療に携わる看護師の立場から公立松任石川中央病院の若狭真樹先生は認知症患者への対応の工夫を話された。医療技術的な面では，京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻近未来システム・技術創造部門の石津浩一先生が総括的に PET 検査の質の低下の原因と対策としてチーム医療の重要性を話された。PET に携わるスタッフが職種ごとに残念な結果を減らすため真摯に取り組んでいることが良く伝わり，大会テーマにふさわしい企画であった。

夜の学校の「症例検討セッション」では，倉敷中央病院の中谷航也先生と神戸大学の野上宗伸先生の座長のもと，「仮面舞踏会」というテーマで謎を解き明かしていく雰囲気の中で進行し，ふたを開けてみると悪性リンパ腫例のオンパレードで，例外的に TAFRO 症候群等が提示された。倉敷中央病院の病理医の経験もある小山 貴先生が奥深いコメントをされ盛り上がった。症例は鳥取大学の石橋 愛先生や滋賀県立成人病センター研究所の奥山智緒先生が厳選され工夫されていた。夜の学校「技術セッション」の「PET 技術の温故知新」では，先端医療センターの千田道雄先生が，1970 年代のオールジャパン体制での PET 装置の開発や，四半世紀の間のクリニカル PET への目覚ましい展開が語られた。「看護セッション」の「看護師から見た PET 施設に潜む危険因子～あなたはどれだけみていますか？」では，セントラル CI クリニック看護部の福内由美先生と西記念画像検診クリニックの平野広美先生の座長のもと，認知症患者の安全な検査のための提案やチーム医療の重要性が強調された。PET 看護研究会からの尽力で全体に良く練られた企画であった。「薬学セッション」の「PET 検査の分野拡大・普及を実現するためにできること」では，北海道大学大学院薬学研究院の小川美香子先生の座長のもと，汎用性の高い ^{68}Ga- ジェネレータの話題があった。放射線医学総合研究所の西井龍一先生からは，がん重粒子線治療後変化をみる上で，FDG 以外の“神ってる薬剤”が欲しいとの本音も語られた。

「変わりゆく甲状腺癌臨床と PET」のセッションでは，放射線医学総合研究所の東 達也先生と金沢大学の絹谷清剛先生の座長のもと，進行性分化型甲状腺癌の治療戦略が 2014 年の分子標的薬の保険適用で大きく変貌し，今が甲状腺腫瘍診療ガイドラインの改定の時期であることや，進行甲状腺癌の update な話題や，FDG PET 検査を活用した内用療

法の経験が話された。

［PET 撮像施設認証って必要なの？］のセッションでは，近畿大学生物理工学部生命情報工学科の木村裕一先生の座長のもと，学会撮像施設認証の目的と概要や手続きの話があり，アミロイド PET の施設基準も議論された。

［ナースのための PET 入門］のセッションでは，大阪府済生会中津病院看護部の迫間幸子先生と辰巳早百合先生の座長のもと，患者と看護師自身の安全と安心のための基本的事項を話され，核医学診療看護師制度の教育研修と PET 専門看護師の育成に貢献すると思われた。

［学会製造基準のつぼ―疑問点を 1 つ 1 つ解説します―］のセッションでは，放射線医学総合研究所の脇 厚生先生の座長のもとに学会製造基準の解説があり，PET 薬剤品質の担保と向上における重要性や PET 製剤の学会製造基準の要点や品質向上のポイントが議論された。注射薬の知識に精通する薬剤師の関与の重要性が認識された。

「アミーゴ達から見た PET」のセッションでは，獨協医科大学の坂本 攝先生と長崎大学原爆後障害医療研究所の工藤 崇先生の座長のもと，IVR 専門医と放射線治療専門医の立場から，いかに PET の有用性を認識されているかが述べられた。読影レポートでは，依頼医の専門分野を加味した視点からの報告が必要である。

「アミロイド PET 撮像技術」のセッションでは，香川大学放射線部の前田幸人先生や近畿大学高度先端総合医療センターの花岡宏平先生の座長のもと，新規販売が開始されたアミロイド PET 検査の立ち上げの際の注意事項や検査法，定量解析の詳細が話され，LSI 札幌クリニックの大野章吾先生は立ち上げからの具体的な経験を話され，ホットな話題で立ち見も多く参加者の関心が高かった。

「臨床試験に PET を用いる場合の注意点」のセッションでは，国際医療福祉大学の百瀬敏光先生と大阪大学の下瀬川恵久先生の座長のもと，医師や PET 薬剤製造に携わる立場から創薬に向けての問題点や課題が議論された。

「次世代 PET 薬剤」のセッションでは，福井大学高エネルギー医学研究センター分子プローブ設計学部門の清野 泰先生の座長のもと，各種の次世代 PET 薬剤を話され，PET の明るい未来を感じた。

「消化器癌臨床における PET の役割」のセッションでは，京都大学の中本裕士先生と福岡大学病院の長町茂樹先生の座長のもと，消化器癌に対する放射線療法や外科手術の面からの PET の役割と期待が述べられた。

「優れた PET 診断医を育成するコツ」のセッションでは，東京女子医科大学の阿部光一郎先生と筆者の座長のもと，熊本大学の坂本 史先生，香川大学の山本由佳先生，順天堂大学の村上康二先生は，PET 診断医育成の心構え，コツや具体的工夫を交えて話され参考になった。

［ワークインプログレス：定量性についての考え方と定量性向上に関する技術］では，九州大学の佐々木雅之先生の座長のもと，PET 装置メーカーの 5 社から定量性に関する技術面での工夫が話された。満席で半導体検出器等各社の工夫，新しい展開も把握できた。

エクスカーションは薬師寺ツアーと清酒発祥の地で酒蔵見学会であった。薬師寺ツアーでは観光案内ボランティアの方の親切丁寧なガイドに古都の素晴らしさを堪能した。

来夏の『PET サマーセミナー』は 2018 年 8 月 24～26 日に山口湯田温泉にて開催します。大会長は，菅と実行委員長の山口大学放射線科の田辺昌寛が務めます。大会テーマは，「PET への熱い志」です。明治維新の立役者，吉田松陰の育てた若き志士たちが集い往来した湯田温泉での開催は，PET に対する志を熱くするのにふさわしい場所です。今回は，奈良で培われた「PET の大きな和」を更に拡げるため PET 黎明期に『夏の学校』と呼ばれていたセミナーの雰囲気に戻すつもりです。松下村塾の雰囲気が自由闊達であったように，PET に係るすべての職種の皆様が一堂に会し，勉強し熱くディスカッションし，共感や交流の場になれば幸いです。美肌を作る温泉，下駄と足湯，山口の緑と高い空も楽しんでください。おいでませ山口湯田温泉へ。

（セントヒル病院放射線科）